

第6次高浜市総合計画 基本計画

1. 目標	(5) 心たくましく健やかに育つ教育環境をつくります		
とりまとめG	教育委員会 教育センターG	担当G	教育委員会 教育センターG

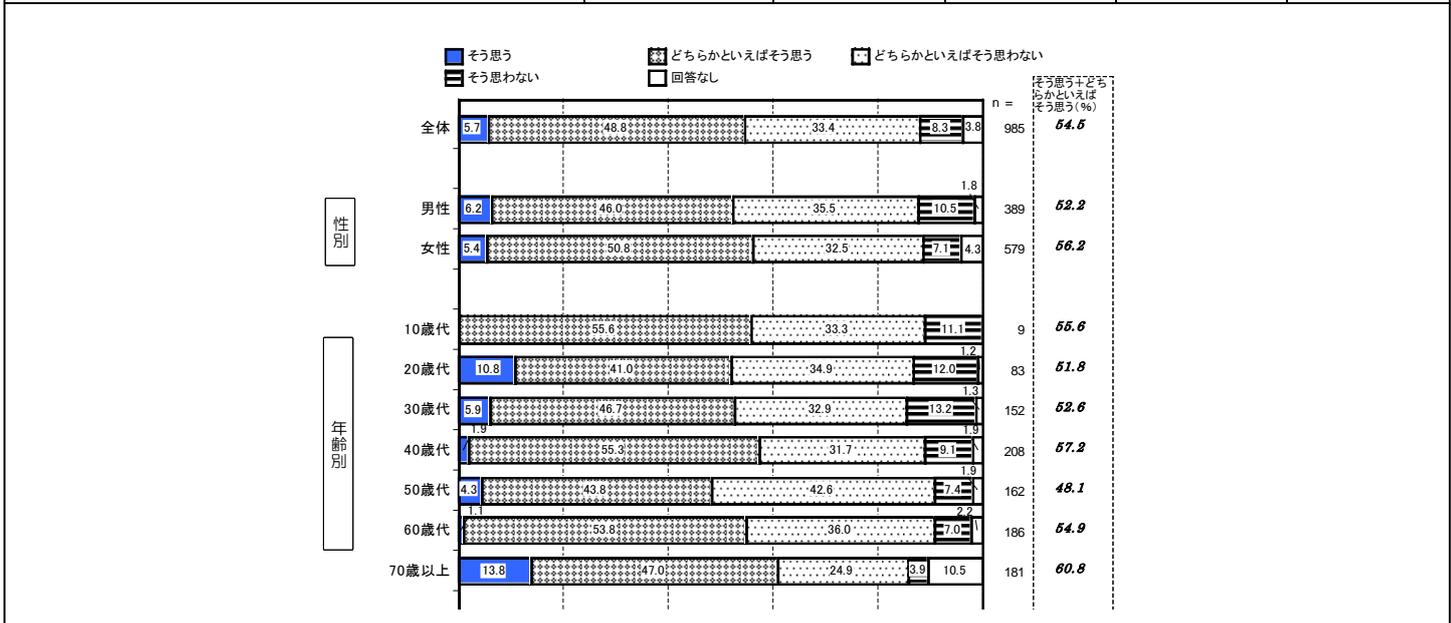
2. 目標が達成された姿
<ul style="list-style-type: none"> ◇ 子どもが心身ともに健康で、夢や希望を持ち、毎日が楽しいと感じています。 ◇ 確かな学力と生きる力が育まれ、一人ひとりの個性が伸びています。 ◇ 教師、家庭だけでなく、地域の様々な人が子どもと関わっています。 ◇ 高浜市の特性に合った教育環境が整っています。 ◇ 子どもが地域活動に主体的に参画しています。

3. 【CHECK】 みんなで目指すまちづくり指標 —目標達成状況—

目標の達成度を計る指標	計画策定時の値 (2010)	実績値			目標値 (2013)	進捗度 評価
		(2011)	(2012)	(2013)		
1) 毎日をとて楽しんで感じている子どもの割合	49.0%	51.1%	55.0%	53.3%	55%	
2) 学習に積極的に取り組む子どもの割合	65.8%	70.8%	71.6%	70.2%	70%	
3) 過去1年間に地域行事、ボランティア活動に参画した子どもの割合	13.6%	3.6%	4.4%	3.7%	20%	

4. 【CHECK】 市民意識調査結果

設問	計画策定時の値 (2010)	実績値			動向
		(2011)	(2012)	(2013)	
心たくましく健やかに育つ教育環境が整っているまちだと思う	45.5%	48.3%	54.6%	54.5%	→



5. 【CHECK】 「みんなで目指すまちづくり指標」「市民意識調査」結果に対する現状分析(要因・課題等)

- ◆ 「指標1」は、「どちらかといえば楽しい」まで含めば93%を越えている。今後もこのレベルを維持していくことが重要である。一方で子どもたちを取り巻く環境の変化が影響すること考えられる。子どもが抱く不安材料を追究し、減少していかなければならない。
- ◆ 「指標2」は、教師は子どもの学習意欲を引き出すための授業力の向上に努めており、効果を上げつつある。一方で学年が上がると、学習内容の難しさから意欲の低下が見られる。ここを少しでも引き上げていくことが課題である。また、学習指導要領の改訂を受け、指導すべき内容が増加している中で、指導時間の確保が逼迫している現状がある。出前授業を含め、子どもの思考・追究に即した内容を精選・焦点化することにより、今後は本来確保すべき授業時間数、子どもの学びの保障のため、さらに調整を図らなければならない。
- ◆ 「指標3」については、アンケートには反映されていないものの、参加の裾野は着実に拡大していると考えられる。一方で参画となると、子どもを参画させるための働きかけ・啓発が課題である。
- ◆ 「市民意識調査結果」について、市民がイメージする「教育環境」は「施設整備」の面が強い。今後進む校舎老朽化を改善しない限り、調査結果の低下は避けられない。そこで、現在推進する「幼保小中の縦の連携」「学校地域家庭の横の連携」が教育環境整備であることをいかに市民に理解してもらえるかが重要である。

(前期)施策評価シート

6. アクションプラン(事務事業)の評価結果(「進捗状況」「効率性」の観点から見た行政による内部評価)

アクションプラン (事務事業名)	評価 結果	活動指標名	実績値 (2013)	目標値 (2013)
		成果指標名		
【No.13】 地域連携推進事業	現行 どおり	学校防災検討委員会の開催	4回	4回
		「高浜市小中学校防災体制マニュアル」の作成進捗率	80%	80%
【No.14】 幼保小中一貫教育推進 事業	現行 どおり	高浜カリキュラム(生活・総合)の完全実施(平成28年度)に向けた推進	8単位	8単位
		高浜カリキュラム(3年総合)を市内5小学校で実践	5校	5校

7. 【CHECK】 これまでの主な取組みと成果

【No.13】

◆平成23年12月に「教育基本構想」を策定、平成24年度からは教育委員会内に「教育センターグループ」を設置した。平成24年度は、教育基本構想に基づくアクションプランを実現する3つの委員会と6つの推進部会を設置した。平成25年度は、進捗状況により、9つの部会を4つに再編した。各会では、引き続き教育基本構想の推進とアクションプランの進捗管理に努めた。

◆地域の総合的な教育環境の質向上をめざし、平成24年度から「学習支援ボランティア推進部会」を設置し、地域の方と共に活動できる学習の洗い出しをしたり、校外においては地域の方と交流できる行事の整備をした。平成25年度は、公的機関や地域による依頼について、学校と地域との思いを調整する仕組みを確立した。また、喫緊の問題である防災体制整備について地域連携の具体的な形として学校防災をあげた。

【No.14】

◆平成23年度「高浜カリキュラム準備委員会」で、どの教科・領域のカリキュラムを作成するかについて、高浜の良さが最も色濃く表れる「生活・総合的な学習の時間」と決定した。平成24年度「高浜カリキュラム策定委員会」で、「生活・総合的な学習の時間」についての全体計画を作成した。

◆平成25年度は、「異校種間連携推進員会」を立ち上げ、幼保小中一貫教育の実現に向け、まずは異校種間の連携強化を図り、互いの教育活動を見合うことができる体制を整備した。また、平成28年度「高浜カリキュラム」完全実施に向けて、指導計画等の準備をした。各園各校が共有して描く「高浜市が目指す6・12・15歳像(学習・生活習慣)」を明らかにする方針を決め、育成のために何ができるか検討した。

8. 【CHECK】【ACTION】 課題と今後の取組みの方向性

(1) 幼保小中教職員による「12年間の学びや育ちをつなげる」意識の向上

- ・高浜教育ビジョンにつながる「高浜市がめざす子どもの姿」を明確にして、幼保小中教職員一人一人がその実現に向かって「12年間の学びと育ちをつなげる」という意識をもてるようにしていく必要がある。
- ・幼稚園・保育園、小学校、中学校といった異校種間の「タテのつながり」を密にし、個々の子どもたちの視点に立ち、発達段階に応じた教育を行う必要がある。

(2) 学校の想いと地域の想いのマッチング

- ・園・学校、家庭、地域といった「ヨコのつながり」を密にし、「本音の語り合い」と「本物の信頼関係」で学校と地域をつなぎ、地域ぐるみで子どもたちの成長を見守り、手助けする“みんなの学校”をつくっていく必要がある。

9. 【CHECK】 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果